

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400096		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホーム虹色		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北三丁目106番地		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2391400096-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム虹色は母体組織が病院なので、介護における医療面でのケアが充実していると考えています。特に精神疾患を併せ持つ認知症の方への対応が充実しています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である「おけはざまクリニック」で透析を受けていただけますし、日常の健診や定期受診も受けていただけます。また職員の教育にも力を入れており、認知症、拘束、虐待等の講習や勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加出来る環境を積極的に作っています。隣接する関連施設と連携し、ボランティアによる演芸会や色々な催し物を共催し楽しんでいます。又、緊急時の対応も協力し合える体制にあり、訓練等も合同で行っております。高齢者特有の疾患や介護に関する市民講座を開催し、地域の皆様に多数の参加を頂いており、今後も地域に密着したサービスの提供を実施していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、運営法人の関連ホームとは異なり、1ユニットのホームとして開設されている。1ユニットのホームである利点を活かし、日常的な申し送り等の時間を活用しながら、職員間で利用者に関する意向等の話し合いが行われており、一人ひとりに合わせた支援につなげる取り組みが行われている。夜勤職員については1名であるが、ホーム建物の隣に関連ホームがあることで、非常災害時等の緊急時には、職員間で連携した対応が可能な体制が構築されており、利用者、家族の安心感にもつながっている。また、医療面についても運営法人の母体が医療機関であることで、利用者の体調変化に合わせた支援が行われている。利用者の中には、医療面での支援が必要な方も生活しており、ホーム建物の隣に開設されている医療機関への受診支援等が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、玄関と事務所に提示してあり、朝の申し送り時に、職員全員で理念を唱和し、共有に努めている。	ホーム名からとっている理念を掲げており、朝礼の時間に理念を唱和しており、職員間の共有につなげている。また、理念を事務室内に掲示している他、月間で目標をつくる取り組みが行われており、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の行事や地域の夏祭りなどに参加している。また近所の人から畑で採れた野菜や果物を頂いたりする。散歩に出かけた時は近所の方とあいさつ交わし、日常的に交流を深めている。	地域の方との交流は、関連ホームや1階のデイサービスでボランティアの方による行事が行われる際には、ホームからも参加している。また、ホーム単独でも、中学生の職場体験の受け入れが行われている。	建物1階のデイサービスのスペースの活用について、法人でも検討しているところでもある。今後の地域の方との交流につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集会場で、定期的に市民講座を開催し、認知症の勉強会や施設の紹介をしている。又、介護相談会も開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催して、活動内容の報告や勉強会を行っている。またそこで出た意見をサービスの向上に活かすよう努めている。	会議は関連事業所と合同で開催されており、1階のデイサービスの場所で行われている。会議の際には、複数の地域の方の参加が得られており、情報交換の機会につながっている。また、会議を通じた勉強会の取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務局側が積極的に連絡をとり、市の介護保険課を訪れ、会議の内容を報告している。またそこでの情報を管理者会議で展開している。	市の担当部署との情報交換等については、法人事務局を通じて行われているが、ホームからも研修会等への参加が行われている。また、法人事務局からは家族介護教室の講師を務めており、協力関係をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等で身体拘束についての勉強会を行っており、身体拘束しない支援の方法を話し合い、取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム2階の入り口は開放されてあることで、職員間での見守りが行われている。また、関連ホームとの研修会の機会がつけられており、定期的な職員の振り返りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したりして、フロア会議で職員も共有できるようにしている。日常の業務でも、職員間で言葉使いなど注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	合同会議で勉強会を行ったして職員は学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に充分時間をとり不安や疑問がないよう説明している。また改定等がある場合は、予め書面で通知し、疑問がある場合は、その都度説明し、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、またユーザー評価を利用し、家族の要望、意見を聞けるよう努めている。内容は、会議等で検討し改善している。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会につなげている。家族からの要望等は、ホーム管理者の他にも、法人事務局にも伝えることが可能である。また、毎月のホーム便りについては、担当職員により個別に作成されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や申し送り時、日常的には、リーダー、管理者に相談している。そこ出た意見は管理者会議・リーダー会議で話し合わせ、反映されている。月に一度は、全体会議、フロア会議を実施している。	1ユニットのホームでもあるため、日常的に職員間で意見交換を行いながら、現場職員からの意見がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。また、法人事務局でも職員との面談等の対応が行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力を把握し法人内での職場の異動(年二回の異動希望)や、実績に応じた賞与査定をしており、向上心をもって働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員に適した、研修や講習会に参加する機会を提供している。また合同会議で各事業所の事例発表を企画し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加している同業者と意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。また関連施設の職員とも情報交換をし、常によりよい介護の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入段階では、管理者、ケアマネがゆっくり時間をかけ傾聴し不安に思っていることを探り、その人に合ったサービスを計画し、職員全員が同じ意見で対応し、安心して生活できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人をまじえての話し合いと家族だけとの話し合いの機会を設け、要望などを伺っている。また心身の情報シートを活用し時間をかけて記入して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話をよく聞き、様子観察し情報を読み取り、今必要としているサービスを見極め、段階的に支援できるよう、取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は積極的にやっけていただき、また人生の先輩としてクッキングや掃除等を教えていただいている。一緒に生活するという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りやクリスマス会、行楽の行事に、ご家族に声をかけ参加して頂いている。面会に来れないご家族には、便りにて報告し、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月などに自宅で過したり、馴染みの散髪屋やお墓参り等に行き、関係が途切れない様支援に努めている。	利用者により、入居前からの友人や同級生の関係の方がホームに訪問する機会があり、関係継続の機会につながっている。また、家族との外出も行われており、利用者により墓参りや法事等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し席替えをしたり、日常のレクリエーション以外でも、関連施設のイベントに参加し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族が関連施設を利用されているので、挨拶に行き近況を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発する言葉だけではなく表情、動作などで気持ちを汲み取るよう努めている。また職員の情報交換も密にしている。	職員間で担当制も活用しながら利用者の把握が行われており、日常的な申し送りの時間を通じた意見交換等が行われている。また、担当者にもアセスメントに参加してもらうことで、利用者に関する情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されてからアセスメントを密に行い、生活歴を大事にして個性を尊重しその人に合った支援が出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、連絡ノート、申し送り等で、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる時は利用者によく話し合い、職員からの情報を取り入れ、また家族からの要望は面会時や電話で話したりしている。	介護計画は、6か月での見直しが行われており、モニタリングについては、3か月での実施が行われている。また、職員間で介護計画に関する情報を共有しながら日常の記録への反映につなげており、計画作成担当者によるチェックが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の内容の評価を三段階で毎日行っている。計画は実践されているか三か月間評価し職員で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対応できるよう、さまざまな支援の方法を話し合い検討して、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、敬老会、近隣のホームセンターへの買い物、近くの公園の散歩、移動図書を利用して、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関以外のかかりつけ医に、家族と受診に行かれる場合にも、病院、家族、職員との連携を密にして、適切な支援に努めている。	母体の医療機関とは、利用者の身体状態等に合わせた支援が行われており、受診支援と医師の訪問診療が行われている。ホームからは整形外科等の対応も行われている。また、看護職員が勤務しており、利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化などその都度職場内の看護師に連絡し、適切な対応が迅速に出来ている。また、訪問看護も利用し、日常の健康管理等のアドバイスも受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネが面会に行き情報を得ている。家族・病院との連絡を密に取り、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針に基き、ご家族、医師、看護師、介護職など終末期に向けたチームとしての支援に取り組む体制となっている。	母体の医療機関とも連携しながら、利用者がホームでの生活を継続できるように、看取りを見据えた支援も前向きに考えている。また、家族とも利用者の身体状態等に合わせた話し合いが行われており、ホームで支援可能な取り組みが行われている。	現状、利用者のホームでの看取り支援は行われていないが、段階的に準備を進めている。家族との話し合いを深めながら、今後の前向きな取り組みにつながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの使用方法は、全体会議で訓練を行っている。緊急時の対応マニュアルは、事務室に掲示し、職員全員が対応出来るよう、常に意識してる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回防災訓練を行っている。また夜間想定訓練では、関連施設とともに連携した避難の方法を訓練している。	避難訓練を毎月実施しており、併設のデイサービスとの合同訓練も行われている。建物の2階に開設していることもあるため、夜間想定訓練も行われている。また、備蓄品については、ホーム単独での管理と法人での管理が行われている。	夜間については、1階は職員がいなくなるため、継続した夜間を想定した訓練に期待したい。また、地域の方ともホームで支援可能な内容を検討しながら、より良い協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や状態を把握し、その人に合った言葉かけに心がけている。	理念に利用者の尊重等の内容が盛り込まれていることで、職員間で唱和しながら日常的に意識するように取り組んでいる。また、関連ホームとの接遇面に関する研修会の機会がとられており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思や希望を表せるような接し方に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状態等を考慮し、その人のペースで生活出来るよう支援している。職員全員が同じ支援ができるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った洋服や髪形にして頂いている。理美容ではカットだけではなく、カラーリングを希望される利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週二回のクッキングを行い、個々の能力を活かしながら、配膳やクッキングを一緒にやっている。また利用者の希望でお寿司をテイクアウトして召し上がっていただく事もある。	食事に関しては、配食業者からの提供されているが、職員がキッチンで調理を行う日を設けており、利用者も出来ることに参加している。おやつ作りの取り組みや身体状態に合わせた食事の提供も行われている。また、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、食事量と水分量を介護記録に記録し、職員全員が把握に努めている。カロリー制限食、一口食、水分にトロミをつける等、個々の状態に対応し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。毎週訪問歯科に来て頂いて連絡ノートも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンを把握し、様子を見ながら時間を決め、トイレ誘導している。自立を促し出来る限り、トイレでの排泄に取り組んでいる。	利用者全員の排泄記録を残しながら、職員間で情報を共有している他にも、医療面での配慮が必要な方の支援も行われている。職員間で排泄に関する検討を行いながら、ポータブルトイレの活用等、一人ひとりに合わせた対応につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、体操、散歩等の運動と適切な水分補給に心がけている。ヨーグルトや腹部マッサージで排便を促している。また、排泄表で3日以上排便が無いと、お薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順は、ローテーションを取り入れ、本人の体調、希望により柔軟に対応している。入浴剤を使って楽しんで頂いている。	入浴については、1日おきの週3回行われており、入浴を拒む方についても、順番を変える等の対応に取り組んでいる。また、利用者の身体状態に合わせた職員複数での介助や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動で、夜間良眠できるよう支援している。また昼間でも、本人の希望、体調を考慮し、居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の目的、副作用等理解し、投薬も慎重に行っている。飲み忘れ、誤薬がない様、何重ものチェックを行っている。薬変があった場合は、情報をノートに記録し職員全員で理解につとめている。様子も記録し残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った出来る事、出来そうな事を把握し、生活出来る様支援している。配膳、体操の号令、メニュー書きやコーヒー豆挽きなど、得意な事を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間行事で遠足や紅葉狩り、外食会に出かけている。近くの公園に散歩へ出かけた。希望があれば買い物に出かけたりしている。	ホームでは、日常的に外出の機会をつくっており、近隣への散歩や買い物等の外出支援が行われている。また、定期的な外出行事の取り組みも行われており、季節に合わせた花見や遠足等に出かける機会もつくられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者には、所持していただいている。また買い物などに一緒に出かけ、好きなものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ事務所の電話で家族等とお話ができる様支援している。またハガキを良く出される利用者もあり、やり取りが続くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りなど季節の作品を利用者様と一緒に作り飾っている。また浴室の暖簾、トイレを誘導する貼り紙で、安心して過ごせるよう工夫している。	ホームのリビングが建物の2階にあることで、採光に優れており、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごすことができる。また、リビングの壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ、食堂のテーブル等で各々自由に過ぎて頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、仏壇、タンス、フォトフレームなど、ご本人の馴染みの物や大切なもの等が置かれ、その人らしく居心地よく過ごせる工夫がされている。	居室には収納スペースが確保されていることで、居室を広く活用することができる。利用者により、様々な家具類をはじめ、好みの物や仏壇等の持ち込みが行われている。また、利用者の中にはベッド以外で過ごしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートには写真をつけてあり、トイレのドアには使用中の札を設けて、わかりやすく工夫している。食事メニュー書き、カレンダーめぐりなど役割意識をもって過ごして頂けるよう支援している。		